

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専修学校熊本YMCA学院
設置者名	学校法人熊本YMCA学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	建築科	夜・通信	288 時間	160 時間	
商業実務専門課程	ビジネス総合学科	夜・通信	456 時間	160 時間	
	医療事務情報管理科	夜・通信	360 時間	160 時間	
	診療情報管理士専攻科	夜・通信	144 時間	80 時間	
社会福祉専門課程	健康スポーツ科	夜・通信	690 時間	160 時間	
	児童福祉教育科	夜・通信	1605 時間	160 時間	
文化教養専門課程	日本語科	夜・通信		160 時間	※
	日本語科	夜・通信		120 時間	※
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html>

### 3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
-----

(困難である理由)
-----------

日本語科においては、特定の職業を想定せず、専ら、言語としての日本語の汎用的な知識、技能の習得を目的としている為。
----------------------------------------------------------

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専修学校熊本YMCA学院
設置者名	学校法人熊本YMCA学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2019年6月 ～2021年5月	経営に関する意見
非常勤	社会福祉法人理事長	2019年6月 ～2021年5月	経営に関する意見
非常勤	大学准教授	2019年6月 ～2021年5月	経営に関する意見
非常勤	大学准教授	2019年6月 ～2021年5月	経営に関する意見
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専修学校熊本YMCA学院
設置者名	学校法人熊本YMCA学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業計画は、定められたカリキュラムに基づいて適正に教員を配置するとともに、それぞれの担当授業について授業計画を立てたもの(シラバス)を担当教員が作成している。それぞれの専門職に求められる卒業時の姿、および本校で定めるカリキュラムポリシーに照らし、それぞれの授業計画が本校で展開される教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。</p> <p>シラバスは、学生に配布している。あわせて、永年保存資料として保管されている。</p> <p>授業計画(シラバス)作成過程</p> <p>9月 教育課程編成委員会にて、カリキュラムの内容について協議、意見交換を行う。</p> <p>11月 各学科にて、講師会を開催し、教育課程編成委員会からの意見を教員で共有。 各教員にて作成</p> <p>2～3月 教頭、校長確認</p> <p>4月 学生に配布。公表。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html">http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせて評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。</p> <p>A評価（100－80点）、B評価（79－70点）、 C評価（69－60点）、D評価（59点以下）で、D評価は単位が取得できない。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<p>本校では、定期試験の点数を合計して成績分布その他の指標を作成している。GPAについては、単位数あたりの成績とされており、単位数に応じた比重で成績が扱われている。しかし、本校で行なわれている実学教育においては、習得するための時間数に差があるとしても現場での重要性においては時間数に比例する形での差があるとは認められるものではない。</p> <p>従って各科目において得た得点をそのまま合計する事によって成績分布のデータになり得ると考えている。</p> <p>留意点としては「一旦科目認定試験で不合格となったが再試験の結果合格した場合」及び「他大学等での取得単位を科目認定した場合の扱い」である。前者については再試験の結果は本校の成績規定に則り、試験の点数に係らず60点（評価C）とする事になるため、点数の合計においては素点ではなく60点で一律としている。</p> <p>後者については、認定された科目を点数化することは困難であり、また学生によって比較的高得点を得る傾向のある学生とそうでもない学生が混在していることから、認定科目の点数を一律に決める事は不合理であると考えている。本校では「該当学生の認定科目以外の科目の平均点」をもって認定科目の点数化をしている。これにより一定の合理性を保つものと考えている。</p> <p>成績の分布については教室内での学修指導や担任による面談には使われていない。クラスや学年の中での相対的な成績の位置は本校での学修目標にはなりえないと考えているからである。</p> <p>実際に点数による順位付けが活用されているのは、卒業時に成績優秀者に与えられる表彰者の選定場面である。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	<a href="http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html">http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html</a>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業要件については、各学科が定める所定の全授業科目を所定の年次に全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、教頭、課程長、学科長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。詳細については、学則をはじめ、履修細則及び学生の手引き等に記載している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専修学校熊本YMCA学院
設置者名	学校法人熊本YMCA学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html">http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html">http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html</a>
財産目録	<a href="http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html">http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html</a>
事業報告書	<a href="http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html">http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html">http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2700 単位時間/単位	1944 時間	72時間	36時間	36時間	612時間
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		71人	1人	2人	12人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 【様式第2号の3より再掲載】 授業計画は、定められたカリキュラムに基づいて適正に教員を配置するとともに、それぞれの担当授業について授業計画を立てたもの（シラバス）を担当教員が作成している。それぞれの専門職に求められる卒業時の姿、および本校で定めるカリキュラムポリシーに照らし、それぞれの授業計画が本校で展開される教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。 シラバスは、学生に配布している。あわせて、永年保存資料として保管されている。
成績評価の基準・方法
（概要） 【様式第2号の3より再掲載】 全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせで評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。 A評価（100-80点）、B評価（79-70点）、

C評価（69－60点）、D評価（59点以下）で、D評価は単位が取得できない。
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>2年課程においては、卒業に必要な2700単位時間以上を履修し、取得することで卒業を認定している。</p> <p>建築科：社会人としての資質を磨き、建築士として人の命を守る建物であることを大切にする建築に携わる人材を育成する。</p> <p>進級・卒業の認定については規程をブックレットにまとめ、学年はじめのオリエンテーションなどの場で学生に周知説明されている。</p> <p>全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、教頭、課程長、学科長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>学科担当者と本人への支援と保護者への連絡を取り、状況を把握したうえで、学科担当者、事務局、就職課、支援委員会と協力しながら学校として支援し、指導していく。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状態を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	0人 (%)	14人 (100%)	0人 (%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>住宅会社、建築設計事務所、施工会社（ゼネコン）</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>個別面談、履歴書作成指導、面接指導、学外会社説明会参加、学内会社説明会実施</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>宅地建物取引士</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			



分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業	商業実務 専門課程	ビジネス総合学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2052 単位時間/単位	1776 時間	96時間	180 時間	0時間	0時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	26人	10人	1人	14人	15人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムに基づいて適正に教員を配置するとともに、それぞれの担当授業について授業計画を立てたもの(シラバス)を担当教員が作成している。それぞれの専門職に求められる卒業時の姿、および本校で定めるカリキュラムポリシーに照らし、それぞれの授業計画が本校で展開される教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。</p> <p>シラバスは、学生に配布している。あわせて、永年保存資料として保管されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせ評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。</p> <p>A評価(100-80点)、B評価(79-70点)、 C評価(69-60点)、D評価(59点以下)で、D評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>2年課程においては、卒業に必要な2052単位時間以上を履修し、取得することで卒業を認定している。</p> <p>ビジネス総合学科</p> <p>経理・事務コース：社会人としての資質を磨き、企業の会計や事務的業務に田主割ることのできる人材育成を目指す。</p> <p>ショップコース：社会人としての資質を磨き、物を買う人に寄り添え企業価値を高めることが出来る人材育成を目指す。</p> <p>ホテルコース：社会人としての資質を磨き、ホテルマンとしてホスピタリティーを学びおもてなしができる人材育成を目指す。</p> <p>進級・卒業の認定については規程をブックレットにまとめ、学年はじめのオリエンテーションなどの場で学生に周知説明されている。</p> <p>全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、教頭、課程長、学科長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、</p>

<p>ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>学科担当者と本人への支援と保護者への連絡を取り、状況を把握したうえで、学科担当者、事務局、就職課、支援委員会と協力しながら学校として支援し、指導していく。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (%)	14人 (87.5%)	2人 (12.5%)
(主な就職、業界等) ホテル、証券会社、農協、サービス業			
(就職指導内容) 個別面談、キャリア教育授業、先輩講話、履歴書作成指導、ガイダンス参加面接指導、学内会社説明会実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) サービス接客検定、ワープロ検定、表計算検定、ビジネス文書検定、電卓技能検定 ホテル実務技能認定試験、ビジネス実務マナー検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29人	3人	10.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気治療に専念、保護者転勤		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業	商業実務 専門課程	医療事務情報管理科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2214 単位時間/単位	1632 時間	312時間	270時間	0時間	0時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	20人	0人	1人	25人	26人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムに基づいて適正に教員を配置するとともに、それぞれの担当授業について授業計画を立てたもの(シラバス)を担当教員が作成している。それぞれの専門職に求められる卒業時の姿、および本校で定めるカリキュラムポリシーに照らし、それぞれの授業計画が本校で展開される教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。</p> <p>シラバスは、学生に配布している。あわせて、永年保存資料として保管されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせで評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。</p> <p>A評価(100-80点)、B評価(79-70点)、C評価(69-60点)、D評価(59点以下)で、D評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>2年課程においては、卒業に必要な2214単位時間以上を履修し、取得することで卒業を認定している。</p> <p>医療事務情報管理科</p> <p>医療事務コース：社会人としての資質を磨き、医療事務として患者様に寄り添える人材育成を目指します。</p> <p>病院管理コース：社会人としての資質を磨き、診療情報管理士の基礎を学ぶ。</p> <p>診療情報管理士専攻科：社会人としての資質を磨き、診療情報管理士とし、多くのデータを適正に管理できる人材育成を目指します。</p> <p>進級・卒業の認定については規程をブックレットにまとめ、学年はじめのオリエンテーションなどの場で学生に周知説明されている。</p> <p>全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、教頭、課程長、学科長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条</p>

件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。
学修支援等
(概要) 学科担当者と本人への支援と保護者への連絡を取り、状況を把握したうえで、学科担当者、事務局、就職課、支援委員会と協力しながら学校として支援し、指導していく。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	10人 (66.7%)	5人 (33.3%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 病院、クリニック			
(就職指導内容) 個人面談、キャリア教育授業、履歴書作成支援、面接指導、先輩講話			
(主な学修成果（資格・検定等）) 医療秘書実務能力検定、ワープロ検定、表計算検定、サービス接客検定 ビジネス文書検定、医療事務技能検定、秘書検定、薬学検定 電子カルテオペレーション実務能力検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27人	2人	7.4%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業	商業実務 専門課程	診療情報管理士 専攻科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	952 単位時間／単位	862 時間	0時間	90時間	0時間	0時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30人	10人	0人	1人	10人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムに基づいて適正に教員を配置するとともに、それぞれの担当授業について授業計画を立てたもの（シラバス）を担当教員が作成している。それぞれの専門職に求められる卒業時の姿、および本校で定めるカリキュラムポリシーに照らし、それぞれの授業計画が本校で展開される教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。</p> <p>シラバスは、学生に配布している。あわせて、永年保存資料として保管されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせて評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。</p> <p>A評価（100－80点）、B評価（79－70点）、 C評価（69－60点）、D評価（59点以下）で、D評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1年課では、952単位時間以上を終了することにより卒業を認定している。</p> <p>診療情報管理士専攻科： 社会人としての資質を磨き、診療情報管理士とし、多くのデータを適正に管理できる人材育成を目指す。</p> <p>進級・卒業の認定については規程をブックレットにまとめ、学年はじめのオリエンテーションなどの場で学生に周知説明されている。</p> <p>全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、教頭、課程長、学科長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。</p>
学修支援等

(概要)

学科担当者と本人への支援と保護者への連絡を取り、状況を把握したうえで、学科担当者、事務局、就職課、支援委員会と協力しながら学校として支援し、指導していく。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (%)	11人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 病院			
(就職指導内容) 個人面談、履歴書・志望動機書作成支援、面接指導、先輩講話			
(主な学修成果(資格・検定等)) 医師事務作業補助者実務能力認定試験、診療情報管理士			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	1人	8.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
福祉	社会福祉 専門課程	健康スポーツ科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1902 単位時間/単位	930 時間	120 時間	492 時間	0時間	360時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	28人	0人	1人	16人	17人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムに基づいて適正に教員を配置するとともに、それぞれの担当授業について授業計画を立てたもの(シラバス)を担当教員が作成している。それぞれの専門職に求められる卒業時の姿、および本校で定めるカリキュラムポリシーに照らし、それぞれの授業計画が本校で展開される教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。</p> <p>シラバスは、学生に配布している。あわせて、永年保存資料として保管されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせて評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。</p> <p>A評価(100-80点)、B評価(79-70点)、C評価(69-60点)、D評価(59点以下)で、D評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>2年課程においては、卒業に必要な1902単位時間以上を履修し、取得することで卒業を認定している。</p> <p>健康スポーツ科:社会人としての資質を磨き、トレーナーやスポーツインストラクター・コーチとして活躍し、正しいトレーニングで日本のスポーツや健康を支える指導者育成を目指します。</p> <p>進級・卒業の認定については規程をブックレットにまとめ、学年はじめのオリエンテーションなどの場で学生に周知説明されている。</p> <p>全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、教頭、課程長、学科長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。</p>
学修支援等

(概要)  
 学科担当者と本人への支援と保護者への連絡を取り、状況を把握したうえで、学科担当者、事務局、就職課、支援委員会と協力しながら学校として支援し、指導していく。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10人 (100%)	0人 (%)	10人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) スポーツジム、通所リハビリテーション、スポーツ用品店			
(就職指導内容) 個別面談、キャリア教育授業、履歴書作成支援、面接練習、学内会社説明会実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) NSCA-CPT、健康運動実践指導者、介護予防運動指導士、アクアティックリーダー 上級救命講習修了、キャンプインストラクター、ワープロ検定、表計算検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	2人	8.7%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
福祉		社会福祉 専門課程	児童福祉教育科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2430 単位時間／単位	1845 時間	60時間	285 時間	0時間	240時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		55人	0人	3人	22人	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムに基づいて適正に教員を配置するとともに、それぞれの担当授業について授業計画を立てたもの（シラバス）を担当教員が作成している。それぞれの専門職に求められる卒業時の姿、および本校で定めるカリキュラムポリシーに照らし、それぞれの授業計画が本校で展開される教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。</p> <p>シラバスは、学生に配布している。あわせて、永年保存資料として保管されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせる評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。</p> <p>A評価（100－80点）、B評価（79－70点）、 C評価（69－60点）、D評価（59点以下）で、D評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>2年課程においては、卒業に必要な2430単位時間以上を履修し、取得することで卒業を認定している。</p> <p>児童福祉教育科：社会人としての資質を磨き、子どもたちの命を守り、心と体をはぐくむことのできる保育士・幼稚園教諭などを目指します。</p> <p>進級・卒業の認定については規程をブックレットにまとめ、学年はじめのオリエンテーションなどの場で学生に周知説明されている。</p> <p>全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、教頭、課程長、学科長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。</p>

学修支援等 (概要) 学科担当者と本人への支援と保護者への連絡を取り、状況を把握したうえで、学科担当者、事務局、就職課、支援委員会と協力しながら学校として支援し、指導していく。
------------------------------------------------------------------------------------------------

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	1人 ( 4.5%)	19人 ( 86.4%)	2人 ( 9.1分%)
(主な就職、業界等) 幼稚園、保育園、認定こども園、児童心理治療施設			
(就職指導内容) 個別面談、履歴書作成支援、先輩講話、面接練習、業界別ガイダンス開催			
(主な学修成果（資格・検定等）) 保育士、幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事任用資格、ワープロ検定、表計算検定短大学士			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65人	3人	4.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更 3		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、保護者面談も実施し早めに対応している。欠席が続いた時には家庭との連絡を密にとり、連携を大切にしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化	文化教養 専門課程	日本語科 (進学2年コース)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	0時間	1800 時間	0時間	0時間	0時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	39人	39人	3人	12人	15人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>入学時にプレテストを行い、各自の日本語能力に応じたクラス編成を行っている。(初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級、上級)また、規程の教育課程及びクラスごとに定める4技能(話す、書く、読む、聴く)の到達目標に従い、半期(6ヵ月)ごとに授業計画を作成し、学生に配布している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせで評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。A評価(100-80点)、B評価(79-70点)、C評価(69-60点)、D評価(59点以下)で、D評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業に必要な1800単位時間以上を終了することにより卒業を認定している。</p> <p>日本語科:外国人に対する日本語教育を行い、諸外国との相互理解と友好の増進を図り、国際的な視野をもった人材育成に寄与することを目的とする。</p> <p>進級・卒業の認定については規程をブックレットにまとめ、学期はじめのオリエンテーションなどの場で学生に周知説明されている。</p> <p>全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任と本人への支援と保護者(経費支弁者)へ連絡を取り、状況を把握したうえで、担任、事務局、支援委員会と協力しながら学校として支援し、指導していく。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27 人 (100%)	21 人 ( 77.8%)	1 人 ( 3.7%)	5 人 ( 18.5%)
(主な就職、業界等) 貿易関係			
(就職指導内容) 進学・就職対策授業			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語能力試験、日本留学試験			
(備考) (任意記載事項)			

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化	文化教養 専門課程	日本語科 (進学 1.5 年コース)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5 年	昼	1350 単位時間/単位	0 時間	1350 時間	0 時間	0 時間	0 時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	24 人	24 人	3 人	12 人	15 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>入学時にプレテストを行い、各自の日本語能力に応じたクラス編成を行っている。(初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級、上級)また、規程の教育課程及びクラスごとに定める4技能(話す、書く、読む、聴く)の到達目標に従い、半期(6ヵ月)ごとに授業計画を作成し、学生に配布している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせで評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。A評価(100-80点)、B評価(79-70点)、C評価(69-60点)、D評価(59点以下)で、D評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業に必要な1350単位時間以上を終了することにより卒業を認定している。</p> <p>日本語科:外国人に対する日本語教育を行い、諸外国との相互理解と友好の増進を図り、国際的な視野をもった人材育成に寄与することを目的とする。</p> <p>進級・卒業の認定については規程をブックレットにまとめ、学期はじめのオリエンテーションなどの場で学生に周知説明されている。</p> <p>全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任と本人への支援と保護者(経費支弁者)への連絡を取り、状況を把握したうえで、担任、事務局、支援委員会と協力しながら学校として支援し、指導していく。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 (100%)	18 人 ( 85.7%)	1 人 ( 4.8%)	2 人 ( 9.5%)
(主な就職、業界等) 英語指導			
(就職指導内容) 進学・就職対策授業			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語能力試験、日本留学試験			

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化	文化教養 専門課程	グローバルコミュニ ケーション科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	960 単位時間/単位	816 時間	144時 間	0時間	0時間	0時間
			単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	8人	8人	1人	6人	7人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>授業計画は、定められたカリキュラムに基づいて適正に教員を配置するとともに、それぞれの担当授業について授業計画を立てたもの（シラバス）を担当教員が作成している。それぞれの専門職に求められる卒業時の姿、および本校で定めるカリキュラムポリシーに照らし、それぞれの授業計画が本校で展開される教育内容にふさわしいものであることを学校として確認し、その後学年の最初の所で学生に示し、オリエンテーションの機会に口頭でも説明している。</p> <p>シラバスは、学生に配布している。あわせて、永年保存資料として保管されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【様式第2号の3より再掲載】</p> <p>全ての科目において、その評価を点数化することを担当教員に対して求めている。評価の方法は、出席率、授業態度、提出物、試験結果、その他の要素を組み合わせる評価している。評価を一側面だけで行なう場合は科目認定試験によるものとしている。</p> <p>A評価（100－80点）、B評価（79－70点）、 C評価（69－60点）、D評価（59点以下）で、D評価は単位が取得できない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1年課程のグローバルコミュニケーション学科では、960単位時間以上を終了することにより卒業を認定している。</p> <p>グローバルコミュニケーション科：日本の文化を学び、日本の高等教育に進む人材育成を目指す。</p> <p>進級・卒業の認定については規程をブックレットにまとめ、学年はじめのオリエンテーションなどの場で学生に周知説明されている。</p> <p>全ての必修科目に合格している事を求めており、それらの結果を元にして、学院長、校長、教頭、課程長、学科長、専任教員、及び必要な教職員の出席によって会議を開き、ルールに照らしてひとりひとりの学生について審議している。その上で進級・卒業の条件が満たされていることを確認し、最終的に進級・卒業が認定されている。</p>
学修支援等

(概要)  
 学科担当者と本人への支援と保護者への連絡を取り、状況を把握したうえで、学科担当者、事務局、就職課、支援委員会と協力しながら学校として支援し、指導していく。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	7人 ( 87.5%)	1人 ( 12.5%)	0人 ( %)
(主な就職、業界等) 介護施設			
(就職指導内容) 進学・就職対策授業			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語能力試験			
(備考)（任意記載事項） この科は進学を目的にした1年コースです			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	1人	11%
(中途退学の主な理由) 就労ビザ取得により就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、校内支援委員会の活用、欠席が続いた時には連絡を密にとり確認をしている。		



## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	施設設備整備費 及び実習費	諸経費 (教材費・行事費)	合計
建築科	150,000 円	570,000 円	210,000 円	150,000 円	1,080,000 円
ビジネス総合学科	150,000 円	450,000 円	210,000 円	180,000 円	990,000 円
医療事務情報管理 科	150,000 円	470,000 円	210,000 円	150,000 円	980,000 円
診療情報管理士専 攻科	150,000 円	460,000 円	210,000 円	136,000 円	956,000 円
介護福祉学科 2 年	150,000 円	510,000 円	210,000 円	141,000 円	1,011,000 円
健康スポーツ科	150,000 円	510,000 円	210,000 円	240,000 円	1,110,000 円
児童福祉教育科	150,000 円	500,000 円	210,000 円	328,000 円	1,188,000 円
グローバルコミュ ニケーション科 (留学生対象)	100,000 円	340,000 円	210,000 円	40,000 円	690,000 円
修学支援 (任意記載事項)					
YMC A 特別奨学生入試として、勉学の熱意はあるが、経済的理由により本学院に進学 が困難な学生に対し、学費の一部を減免する制度を設けている。(定員 5 名) A 奨学生：1 年次の授業料全額減免、B 奨学生：1 年次の授業料 1/2 減免 C 奨学生：1 年次の授業料 1/4 減免					

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法	
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)	
<a href="http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html">http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html</a>	
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)	
<p>実践的な職業教育を目的とした学校の教育活動その他の学校運営の状況について、成果を検証し必要な改善を行うことにより、学生がより質の高い水準の職業教育を受けることができるような学校運営の発展を目指していく。そのために学生や卒業生、専門領域の業界関係者の意見を積極的に汲み取り反映させるとともに、活動状況を分かりやすく示す必要がある。</p> <p>そこで、専門領域の業界関係者を含む学校関係者評価委員会を組織し、本学院の教育理念や目標に照らして自己評価を実施しその結果を公表することにより、組織的・継続的な改善に努める。これにより、学校と職業現場との相互理解を深め、連携の促進を通して地域に開かれた学校づくりをすすめていく。</p> <p>評価項目は以下の通りとする。</p>	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ・学院長挨拶 ・教育方針 ・歴史と使命(熊本 YMCA 学院について)
(2) 各学科等の教育	・各学科紹介
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職活動について

(5)様々な教育活動・教育環境	・行事報告 ・ボランティア活動
(6)学生の生活支援	・施設案内
(7)学生納付金・修学支援	・募集要項、入学試験案内 ・進学支援プランについて
(8)学校の財務	・学校の財務
(9)学校評価	・学校評価
(10)国際連携の状況	・国際協力、地域貢献
(11)その他	・学則
※(10)及び(11)については任意記載。	

#### 学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
崇城大学 工学部 建築学科 教授	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	有識者
武蔵ヶ丘病院 診療情報管理士	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生
ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ社長兼CEO	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員
公益財団法人熊本YMCA	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員
西合志中央保育園 副主任	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員・卒業生
熊本YMCA学院 学院長		

#### 学校関係者評価結果の公表方法

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html>

#### 第三者による学校評価(任意記載事項)

#### c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/vocational/11579.html>